

仏さまのはなし

郷音流

~ K O U R U ~

発行所
茨城東組事務局
茨城県常陸太田市
久米町20-1
正念寺内



親から子へ

本泉寺住職 鳥喰唯然

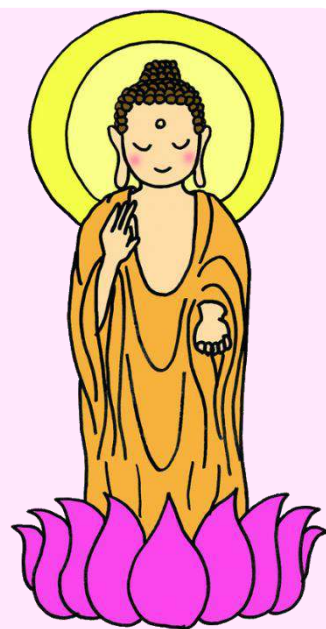
五十年程前、初冬の早い晴れた日の午後、ご門徒の方が
急ぎ足でやってきました。

「お寺さん、ご本尊を本願寺から受けてくれませんか。」

あなたの家では、まだ新しい立派なご本尊さまが
あったでしょうと尋ねますと、

「いや実はですね。一週間ほど前に娘が結婚したんですが、
新居には仏壇がないのでお参りができません。

『今まで、朝に晩に仏壇に向かって阿弥陀如来さまに
お念仏申していたのに、それが出来ないの寂しくて
しょうがない。』と娘が言うのです。それで大至急、
本願寺からご本尊を受けて頂きたいのです。」
と申されました。



育ったので、娘さんも自然にお念仏の道を歩みたいと
思われたのでしよう。

あれから五十年余、世の中もだいぶ様変わりしています。
あの時の娘さんも今ではおばあさんです。

今はどこに住んでいるのか
分かりませんが、

現在も父親と同じ
お念仏の道を頼もしく

堂々と歩まれている
ことだと思えます。

また、その背中を見て
育った子や孫にも、きっと

お念仏が伝わっていること
でしょう。

合掌



ご本願を信じ、
阿弥陀如来さまの
お心を知り、
お念仏を申す
父親の背中を見て

お寺紹介

第7回



〒319-0313 水戸市筑地 621



当山は、三祖山成就院正覚寺と号し、
建治3年（1277年）小松内大臣
平重盛の次男、幼名仁壽丸事蓮順坊
順玄が親鸞聖人の弟子となり
牛伏の地に建立されました。ご本尊は、
本願寺第3世覚如上人御真筆と共に
下賜されし三昧の阿弥陀如来です。
元禄2年に玄了上人により牛伏より
現在地の築地に山門、鐘楼を移し
24世釋順栄まで隆盛を極めるも
明治6年落雷により本堂等消失し
無住となりました。大正2年に
再興されるも昭和11年に再び
落雷により焼失し無住となり、
存亡の危機が続きました。その後、
昭和25年に第26世住職釋博秀に
より荒廃したお寺の復興がはかられ
昭和55年には、住職、門徒の総力を



報恩講の様子

結集し待望の本堂を建立することが
出来ました。そして、平成17年には
庫裏会館が建設されました。
仏事としては、春、秋の彼岸法要、
総永代経法要等、諸行事があります。
その中でも報恩講は、親鸞聖人の
ご遺徳を偲び、仏法に遭う、
私たちが最も大切にしている仏事です。
毎年ご命日の11月28日（陰暦）に
茨城東組のご住職様にも来て

いただき法要が行われ、多くの
門徒さんが参詣します。さらに
ご講師を招き、み教えや人生で
大切な事を学びます。またこの日は、
婦人会により手作りのお齋
（精進料理）と小豆粥が準備され、
参詣者は、お膳に用意されたお齋や
親鸞聖人が好んだ小豆粥を頂き
仏縁を結び報恩謝徳の念仏をいた
いております。

門徒推進員 飛田 廣實（釋致清）

合掌



婦人会によるお齋の準備

はじめての仏事

第7回

作法のいろは

浄妙寺副住職 那須 信行

Q & A
～ 仏事の問い～

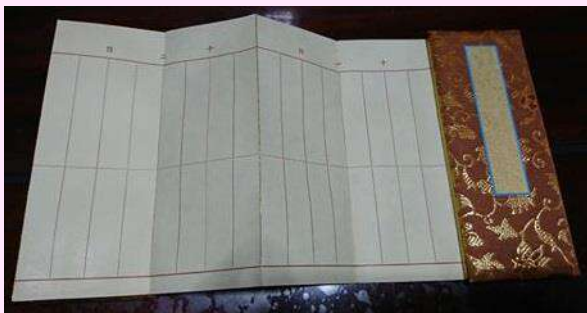
日頃の仏事において「なぜこれはこのようにするのだろうか?」と、疑問に思われたことはありませんか? 特に浄土真宗においては、世間に広まっている仏教の教えや作法と違うところが多いので、戸惑う方もいらつしやるかと思えます。

そのような浄土真宗の仏事にまつわる皆様の疑問を、共に考えていきたいと思えます。

【問い】 浄土真宗では位牌ではなく、過去帳を用品とされました。先祖代々、白木の位牌をお仏壇に安置してきましたが、位牌は不要なのでしょうか?

【回答】 浄土真宗(一部の派を除く)では位牌を用いず、過去帳に故人の法名、俗名、命日等を記します。しかし過去帳も位牌と同じような扱いをしてしまつては、本来の意義をなしていかないといえます。

先ず過去帳ですが、これは言わば家系図を命日ごとに記した先祖の記録帳です。位牌のように過去帳に故人の魂が宿ることはありません。私のいのちを紡いできた先祖の方々が、法名を通してどのような方であったかなどを示すものであると私はいただいております。



過去帳

次に位牌について共に考えてみましょう。位牌とは「位の牌(ふだ)」ということ、故人の生前の官位と姓名を書き記した木の牌をいい、そこには「亡き方の魂が宿るもの」と信じられてきました。これはもともと中国の儒教で用いられたものであり、やがて日本の先祖崇拜と結びつき、仏教にも転用されるようになりました。さて私たちはいのちを終えれば魂となり、位牌やお墓の中に籠るのでしょうか。親鸞聖人は私たちに、阿弥陀さまのお念仏のはたらきとであった者は、いのち終えるとき、すみやかに阿弥陀さまがつくられた浄土に生まれ、仏さまとならせていただくとお示しくださっています。ですから先立つて往かれた方々は魂となって位牌やお墓に籠ることなく、いつでもどこでも分け隔てなく永劫に私に寄り添い、見守り支えてくださいます。阿弥陀さまと同じはたらきをしてくださっているわけですから、お仏壇に安置されている阿弥陀さまの掛け軸に手を合わせることは、同時に先立つて往かれた方々に手を合わせ偲ぶことと同じことになるのです。

故人の魂が宿ると信じられてきた位牌ですから、残された者が位牌に手を合わせることは、人情として否定できる行為ではありません。お念仏のはたらきを通して、いつか私が気づき目覚め、自然と位牌から阿弥陀さまに手を合わせるようになるのではないのでしょうか。称名念仏 ※ 浄土真宗でも葬儀で位牌を用いることが多いですが、これは位牌として用いているのではなく、あくまで法名を記す牌として用いておりますので、良く位牌に記された名前の下に書き入れてある「位」は書き入れないことが通例です。

お知らせ

中央教修のご案内

みなさんでともに浄土真宗を学んでみませんか？

中央教修に参加し、門徒推進委員として

悲しみや苦しき喜びの人生を多くの方々と、ともに歩んで下さい。

中央教修とは全国の各地域で行われる連続研修会を修了した方を対象に、御本山西本願寺で行われる研修会の事です。3泊4日の日程で行われ、全国から参加される受講者、スタッフとも親しくなる事ができ、人生の視野が格段に広がります。仏法を聞き、法友との話し合いによってこれまで遠い世界の事と捉えていたみ教えが、いのちの大切さを説き、病気や死の恐怖を乗り越え、自分の生活が光り輝くものに変えてくれる尊い教えであったという体験がきっとできると思います。

法とともに朋とともに、これからの人生歩んでみませんか？やり直す事の出来ない人生を、見直してみませんか？

連続研修会のご案内

連続研修会は単に浄土真宗のみ教えを学ぶことが目的ではなく、浄土真宗のみ教えが、あなた自身の生活に必要な不可欠なものであることを実感し、生きる意欲をともに感じる研修会です。

2年を1期とし、現在16期の2年目に突入。17期の募集は来年度になりますが、興味のある方は是非お近くのお寺にお問い合わせください。お待ちしております。

グリーフケア研修会のご案内

グリーフ (grief) とは、深い悲しみの意。
身近な人と死別して悲嘆に暮れる人が、その悲しみから立ち直れるようそばにいて支援すること。

死は誰もが経験します。

お父さん、お母さん、伴侶、子ども、友人、恋人…。

大切な人を亡くした時、あなたはどうしますか？

まわりに大切な人を亡くして苦しんでいる人にどんな風に接しますか？

死別の支えとはどういったことなのか、

グリーフサポートを学ぶきっかけにしてみませんか？

茨城東組若手の会が中心となり、この度グリーフサポート研修会を開催することとなりました。死別の苦しみとどう向き合う事が出来るのか、一般社団法人リヴオン 代表理事 尾角 光美氏をお招きしともに学びを深めさせていただきたいと思っております。詳細につきましては、間もなく決定いたします。決まり次第、各お寺にお伝えしますので、ご興味のある方はお近くのお寺までお問い合わせください。

編集後記

光陰矢の如し。平成最後の響流となりますが…

よくよく考えれば、今日という日は私にとって生涯最後の今日。生涯最後の今を生きている。

平成最後のなどと言っている場合でない時間を生きている事に驚かされつつ、皆で仕上げた響流

ご一読いただけましたら幸いです。

(清心寺副住職・増田 廣樹)